

男女がともに 輝くために

美浦村男女共同参画
～共に輝くみほの会～

問合せ 企画財政課
☎029-885-0340(内)208

災害対応において

私たちができること

林 昌子

10月19日～20日に、第9回
防災推進国民大会「ぼうさい
こくたい2024 in熊本」が
開催されました。

令和6年1月1日発生した
能登半島地震では、自治体や
民間団体の職員、ボランティア
など、様々な女性たちが支
援に関わりましたが、避難所
運営等では男女共同参画の視
点が十分に反映されていない
事例がありました。

そこで、岡澤尚美さん（福
井県防災安全部理事）の講演
『災害現場に女性職員が参画
する意義とは』の中で、発災
後に石川県珠洲市で自ら実践
された、女性視点に立った避

難所運営支援の取り組みが示
されました。

・宿泊環境の整備（着替え用
テントやキャンピングカー
の導入）

・男女局作成「避難所チエッ
クシート」活用で生活環境
を確認

・男女ペアでの巡回訪問で、
困りごとや不足物資の二
ズの聞き取り

・「防犯ブザー」を「あんしん
ブザー」と呼び名を変更し、
体罰悪化時にも活用

そして、岡澤さんは結びに、
「被災者の半数は女性。その
ニーズに応えるためには、女
性職員の存在が大きな力にな
る!」、「女性の視点に立った
取り組みは『落ち着いたら』
では遅く、避難所内や応援職
員間のパワーバランスが固ま
る前に取り組むことが必要で
ある!」と強く語られました。

平成27年9月の常総市三坂
町値先の鬼怒川堤防が決壊し
た時に、私は防災士として災
害支援に参加しましたが、家
屋53棟全壊、1591棟が大
規模半壊した当時の悲惨な状
況は今でも忘れられません。

三坂町の道路が寸断した地
域の半壊家屋に伺い、高圧洗
浄機でブロック塀や障子木枠
等の洗浄作業をしながら、家
屋内の泥を敷地外に掃き出す
お手伝いをさせて頂きました。
これからどう生きていけば
良いか不安を抱えている被災
者の方々のお姿に、「今後同じ
思いをする人を減らしたい」
との思いでいっぱいになりま
した。

30年以内の発生確率が1%
未満でも発生した熊本地震。
過去の出来事を教訓として、
美浦村で災害がおきた時、避
難所生活できる体制が整うま
で最低3日間の水と食糧の備
えは、各自準備が必要です。
我が家での備えを万全に、
1年に1回は家族での話し合
いが大切ではないでしょうか。

◇出典 内閣府男女共同参画
局発行「共同参画」（202
5年1月号）より
※詳しい講演の内容は男女共
同参画局ホーム
ページからご覧
いただけます。



みほ文芸

正調俚謡 日和吟社 字結び「梅」

花は二分咲き春まだ遠くせめて笑顔の梅むすめ
梅の香りをほんのり感じ春の訪れ浮く心
庭に蠟梅（ろうばい）微かに見える梅に驚華がある

耐えて寒風香りを乗せて梅花ほころぶ春だより
春の息吹きに光が遊び梅のつぼみが覗いてる
梅花ながめて語らう夢を風情身に沁む小田の里

固い心の蕾の梅を笑え笑えと口説く東風
北の積雪楽あり苦あり梅の便りはまだ遠し
若い笑顔で客呼ぶ娘等は春を呼び込む梅大使

朝日拝んで梅千朝茶今の幸せ噛みしめる
孫娘の門出に一輪咲いた春を寿ぐ木戸の梅
咲いたろう梅咲かずに三年友の剪定アドバイス

癒えぬ悲しみ辛さを越えて梅がほころぶ能登の里
親子そろって合格祈願梅もほころぶ湯島坂
梅見日和に仲間と集い早春の香りに満つ心

若く綺麗な小学校の梅子先生百歳祝う
寒い寒いとひと月過ぎた梅とほころぶ我が心
二月の俳句（題 当季雑詠）

うら梅やひとか香りか思い出か
鳥狙う狭庭の新芽丸裸
姿なく耳に届きし初音かな

着ぶくれて川魚売りの老婆来る
豆まきの豆歳の数ただ眺め
寒明けや名店蕎麦屋の列に居て

木々渡る声の伝える芽吹かな
散りてなお山茶花の赤色めきて
防災の五時のメロディー日脚伸ぶ

まるまると電線揺らす冬すずめ

五十音順

石戸 律華
伊藤 葉子
井戸 賀蘇道
上野 八千代
小園 江久美
門脇 悠美
篠原 美千代
関根 秀子
高橋 一步
田島 草実
塚本 夏雲
沼寄 朋香
長谷川 悦子
増尾 青蓮
山岡 亜子
山崎 笑子
山崎 泰弘
市川 紀行
海道 民子
高柳 幸子
田島 早苗
中島 輝子
長田 敏笑
増尾 尚子
松葉 統子
村崎 典子
山口 美代子